

Ⅱ フリーストール・ミルクパーラー編

～飼槽からベッドまで移動を邪魔されず、弱い牛もエサを食べられる環境を～

フリーストール牛舎での牛の採食環境の特徴は、牛が自分で歩いて、飼槽、水槽、ベッドの間を行き来する、ということです。この一連の移動行動が制限されると、乾物摂取量が制限されることになります。そして、寝起きしやすい快適なベッドを提供することが牛の採食意欲の低下を防ぐことにつながります。以下の3つの観点からチェックしてみましょう。

構造的なものは後で対処するのは困難です！ 建てる前、計画段階でチェックしましょう！！

構造的な注意点

☆牛の行動を妨げない

- 採食通路幅は、採食している牛の体長 + 2 頭の牛が十分に余裕をもってすれ違える幅（3.9～4.2m程度）にし、袋小路（行き止まり）を作らない。
- 横断通路幅は飲水している牛の体長 + 2 頭の牛が余裕をもってすれ違える幅（3.3～3.6m程度）にする・横断通路の高さは、除糞作業を考慮しつつ可能な限り低く（最大 20cm程度）する

すぐにできる改善点

- 滑らないように、目地を施工するか通路用ゴムマットを敷設する。

採食行動を観察✓こんな牛はいませんか？



飼槽幅が少ないため、ただ順番待ちしている牛はかわいそう！十分なスペース確保が難しい場合、エサの掃き寄せ回数を増やす等して、すべての牛が腹一杯食べられる様工夫しましょう。

☆競争を減らす

- 牛が一斉に食べられる1頭あたりの飼槽スペースを確保する。（搾乳牛では飼槽幅は最低でも 60cm/頭は必要）
- 水槽はストール 13～15 個おきに設置する。（水面の高さは 75～85cm 程度。掃除しやすい構造にすること。）

- 搾乳後、パーラーから帰って来た時には、飼槽にエサがあるようにする。
- 全頭が食べはじめてから 30 分を目安にエサの掃き寄せをする。（食い負け牛を作らない、エサが口に届かなくなる前にエサ寄せするタイミングにする）

☆快適性の確保

- 休息したくなるベッドになっているか？（何の障害もなく起き上がる動作ができますか？牛体をどこにもぶつけずに体を床面に下ろす動作ができていますか？）ストール構造、敷料の入手法については事前に良く検討すること。

- 年間を通して新鮮な空気が吸えるように、夏季は側面カーテンを全面開放し、牛舎内に風を通し、冬季も湿度を下げるために、暴風雪がない時、日中などには、なるべく開放するようにする。

- 牛床マット、暑熱対策換気扇等の導入計画は早目に検討する。